

要介護高齢者が再入院を繰り返す 諸要因の原因分析

甲田 由美子

筆者は看護師として、またケアマネジャーの経験から、地域包括支援センターで多数の高齢者の生活支援に携わってきた。現在一般病院の入退院支援を行う部署で勤務している中、日々病気を抱え生活に支障がみられる高齢者の入院を目の当たりにする。退院の準備過程において本人や家族、ケアマネジャーと退院後の新たな生活に向けて支援を行うが、すぐに再入院となるケースにあるに疑問を抱いた。

年々在院日数の短縮化が進められる中、適切な連携の下での退院調整が求められる。そうした現状において、本研究では、1か月未満に予定外再入院した患者について実態調査を行い、退院支援の課題と予定外再入院防止対策について検証した。調査は以下の3つを行った。

調査Ⅰ：2016年度における1か月未満の予定外再入院患者の概況調査

調査Ⅱ：調査Ⅰから特徴的な4つのパターンの事例概要を調査

調査Ⅲ：在宅訪問調査によるアクションリサーチ

その結果、調査Ⅰから、同疾患もあれば違う疾患で再入院になっていることがわかり、①退院支援の連携、②本人あるいは家族の病気についての理解に問題があること、③社会資源の課題、④入退院を繰り返す病態が分かった。そこで調査Ⅱでは、先の4つのパターンについて事例を見てみると、連携では介護対応する関係者に直接情報提供が必要なことや、家族の理解はまず連携で関係者から聞き取り、総合評価で取り組みを進めることが重要である。また、高齢者の疾患の特徴から再入院になってしまう可能性があることから、入院になる甘えから病院と関係者が連携して準備しておく必要性が見えてきた。そして再入院防止のためには、要介護高齢者の自宅を訪れ、移動方法や福祉用具の選定、寝起きする環境や内服や食事など具体的に個別

にあった方法を、本人および家族と関係者一同で行うことが再入院防止につながるということが分かった。今後の課題として、これからも増え続ける高齢者の入退院に関わる病態と高齢者背景をとらえる必要があるため、引き続き連携の在り方を追求していく。因分析を行い、再入院に至る問題点を明らかにし、再入院防止のための対策について論じていきたい。